

保育所保育指針・幼稚園教育要領から読み取る
「領域」と学生が認識する領域の研究
ーファシリテーションを用いてー

田 辺 恭 子
後 藤 永 子

愛知東邦大学

保育所保育指針・幼稚園教育要領から読み取る 「領域」と学生が認識する領域の研究

ーファシリテーションを用いてー

田 辺 恭 子*
後 藤 永 子**

目次

- I 背景・目的
- II 新・旧比較検討
 - II-1 幼稚園教育要領の比較
 - II-2 保育所保育指針の比較
- III 領域「健康」に対する学生の認識
- IV 考察
 - IV-1 幼稚園教育要領及び保育所保育指針の比較の考察
 - IV-2 領域「健康」の学生の認識についての考察
- まとめと課題

I 背景・目的

1956年に初めての「幼稚園教育要領」が文部省から発行され、2017年には5度目の改訂がなされて新たな幼稚園教育要領が告示された。「保育所保育指針」は1947年に「児童福祉法」が制定されたものが基となり、1965年「保育所保育指針」として制定されたものである。その後4度改訂がなされ、2017年に「幼稚園教育要領」と同じく告示された。これらは保育士が幼稚園、保育所及び認定こども園にて子どもとの適切な関わり、教育、その他の設備など必要である事柄が記載されており、保育に携わるものにとって参考とすべきものである。

2001年に保育士資格が法定化され、保育士の役割について、それまでの保育士の保育に従事する者という大まかなものであったが、2001年の保育士資格の法定化により保育士は「保育士の名称を用いて、専門的知識及び技術を持って、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行う」（法18条の4）とし、かつ「保育士でない者は、保育士又はこれに紛らわしい名称を使用してはならない」（法18条の23）と規定された。このことから保育士資格を持つ保育に対して専門家であるということである。

これらのことから本論文では、これまでの幼稚園教育要領（以下、幼稚園教育要領（旧））と

* 愛知東邦大学教職支援センター

** 愛知東邦大学教育学部

2018年から施行される幼稚園教育要領（以下、幼稚園教育要領（新））とこれまでの保育所保育指針（以下、保育所保育指針（新））と2018年から施行される保育所保育指針（以下、保育所保育指針（新））の改定された内容についての比較を行う。

さらに、保育士、幼稚園教諭養成校の学生に領域の「健康」についてどのような認識及び理解があるかを明らかにするため、アンケートを行う。

今回は領域のみを取り上げて比較することとするため、保育所保育指針の養護に関するねらいやその他の記載部分は取り上げないこととした。

さらに領域の比較の際、ねらいと内容のみを取り上げ、内容の取扱いについては割愛することとした。

Ⅱ 新・旧比較検討

Ⅱ-1 幼稚園教育要領の比較

新たな幼稚園教育要領では定められた5つの目標の達成ができるよう、知力・道徳・体育、個人の力・自主自律の精神・勤労の態度など、道徳性や社会への参画の態度、生命・自然・環境保全に寄与する態度、伝統と文化と他国の尊重や平和などに寄与する態度等を養うことが必要とされている。以下が幼稚園教育要領のねらいに関する新・旧の比較である。

表 1 幼稚園教育要領 新・旧比較

幼稚園教育要領（新）	幼稚園教育要領（旧）
<p>この章に示すねらいは、<u>幼稚園教育において育みたい資質・能力を幼児の生活する姿から捉えたもの</u>であり、内容は、ねらいを達成するために指導する事項である。各領域は、これらを幼児の発達 の側面から、心身の健康に関する領域「健康」、人との関わりに関する領域「人間関係」、身近な環境との関わりに関する領域「環境」、言葉の獲得に関する領域「言葉」及び感性と表現に関する領域「表現」としてまとめ、示したものである。 <u>内容の取扱いは、幼児の発達を踏まえた指導を行うに当たって留意すべき事項である。各領域に示すねらいは、幼稚園における生活の全体を通じ、幼児が様々な体験を積み重ねる中で相互に関連をもちながら次第に達成に向かうものであること、内容は、幼児が環境に関わって展開する具体的な活動を通して総合的に指導されるものであることに留意しなければならない。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、ねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であること</u></p>	<p>この章に示すねらいは、幼稚園修了までに育つことが期待される生きる力の基礎となる心情、意欲、態度などであり、内容は、ねらいを達成するために指導する事項である。これらを幼児の発達 の側面から、心身の健康に関する領域「健康」、人とのかかわりに関する領域「人間関係」、身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」、言葉の獲得に関する領域「言葉」及び感性と表現に関する領域「表現」としてまとめ、示したものである。各領域に示すねらいは、幼稚園における生活の全体を通じ、幼児が様々な体験を積み重ねる中で相互に関連をもちながら次第に達成に向かうものであること、内容は、幼児が環境にかかわって展開する具体的な活動を通して総合的に指導されるものであることに留意しなければならない。なお、特に必要な場合には、各領域に示すねらいの趣旨に基づいて適切な、具体的な内容を工夫し、それを加えても差し支えないが、その場合には、それが第1章の第1に示す幼稚園教育の基本を逸脱しないよう慎重に配慮する必要がある。</p>

<p>を踏まえ、指導を行う際に考慮するものとする。</p> <p>なお、特に必要な場合には、各領域に示すねらいの趣旨に基づいて適切な、具体的な内容を工夫し、それを加えても差し支えないが、その場合には、それが第1章の第1に示す幼稚園教育の基本を逸脱しないよう慎重に配慮する必要がある。</p>

<出典>無藤隆・汐見稔幸・砂上史子，ここがポイント！3 法令ガイドブック，p66

表2 幼稚園教育要領5領域 新・旧比較

健康		人間関係		環境		言葉		表現	
新	ねらい	新	ねらい	旧	ねらい	新	ねらい	新	旧
新	ねらい	新	ねらい	旧	ねらい	新	ねらい	新	旧
(1)明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。	(1)幼稚園生活を楽しみ、自分のできる行動することの充実感を味わう。	(1)幼稚園生活を楽しみ、自分のできる行動することの充実感を味わう。	(1)幼稚園生活を楽しみ、自分のできる行動することの充実感を味わう。	(1)身近な環境に親しみ、自然と興味や関心をもち、自ら活動することの充実感を味わう。	(1)身近な環境に親しみ、自然と興味や関心をもち、自ら活動することの充実感を味わう。	(1)自分の好きな言葉や表現をする楽しさを味わう。	(1)自分の好きな言葉や表現をする楽しさを味わう。	(1)いろいろなもの、美しいもの、自分に対する豊かな感性をもつ。	(1)いろいろなもの、美しいもの、自分に対する豊かな感性をもつ。
(2)自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。	(2)自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。	(2)自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。	(2)自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。	(2)身近な環境に自分から関わり、発見を楽しむ。考えたり、それを通して生活に取り入れようとする。	(2)身近な環境に自分から関わり、発見を楽しむ。考えたり、それを通して生活に取り入れようとする。	(2)人の言葉や活動などをよく聞き、自分の経験したことや考え、自分の話を話し、伝え合おうとする。	(2)人の言葉や活動などをよく聞き、自分の経験したことや考え、自分の話を話し、伝え合おうとする。	(2)感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。	(2)感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
(3)健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。	(3)健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。	(3)健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。	(3)健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。	(3)身近な事象を見たり、考えたり、自分の経験したことや考え、自分の話を話し、伝え合おうとする。	(3)身近な事象を見たり、考えたり、自分の経験したことや考え、自分の話を話し、伝え合おうとする。	(3)日常生活に必要な言葉がわかるようになる。また、友達や先生と対する態度を豊かにする。	(3)日常生活に必要な言葉がわかるようになる。また、友達や先生と対する態度を豊かにする。	(3)生活の中でイメージを豊かにし、豊かな表現を楽しむ。	(3)生活の中でイメージを豊かにし、豊かな表現を楽しむ。
(4)いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。	(4)いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。	(4)いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。	(4)いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。	(4)自然と関わり、発見したり、考えたり、自分の経験したことや考え、自分の話を話し、伝え合おうとする。	(4)自然と関わり、発見したり、考えたり、自分の経験したことや考え、自分の話を話し、伝え合おうとする。	(4)先生や友達との言葉や活動を通して関わり、話し合おうとする。	(4)先生や友達との言葉や活動を通して関わり、話し合おうとする。	(4)生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりする楽しさを味わう。	(4)生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりする楽しさを味わう。
(5)様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(5)様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(5)様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(5)様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(5)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(5)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(5)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(5)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(5)生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。	(5)生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
(6)先生や友達と食べることが楽しく、食べ物への興味や関心をもち、安全に食事を摂る。	(6)先生や友達と食べることが楽しく、食べ物への興味や関心をもち、安全に食事を摂る。	(6)先生や友達と食べることが楽しく、食べ物への興味や関心をもち、安全に食事を摂る。	(6)先生や友達と食べることが楽しく、食べ物への興味や関心をもち、安全に食事を摂る。	(6)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(6)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(6)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(6)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(6)生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。	(6)生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
(7)身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、移動などの生活に必要な活動をする。	(7)身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、移動などの生活に必要な活動をする。	(7)身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、移動などの生活に必要な活動をする。	(7)身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、移動などの生活に必要な活動をする。	(7)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(7)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(7)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(7)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(7)生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。	(7)生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
(8)幼稚園における生活の仕方を学び、自分たちで生活の場を豊かにしながら見通しをもつ。	(8)幼稚園における生活の仕方を学び、自分たちで生活の場を豊かにしながら見通しをもつ。	(8)幼稚園における生活の仕方を学び、自分たちで生活の場を豊かにしながら見通しをもつ。	(8)幼稚園における生活の仕方を学び、自分たちで生活の場を豊かにしながら見通しをもつ。	(8)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(8)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(8)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(8)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(8)生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。	(8)生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
(9)自分の健康に心をもち、病気の予防などに必要な活動をする。	(9)自分の健康に心をもち、病気の予防などに必要な活動をする。	(9)自分の健康に心をもち、病気の予防などに必要な活動をする。	(9)自分の健康に心をもち、病気の予防などに必要な活動をする。	(9)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(9)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(9)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(9)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(9)生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。	(9)生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
(10)危険な場所、危険な遊びや危険な道具などから安全に遊ぶ。	(10)危険な場所、危険な遊びや危険な道具などから安全に遊ぶ。	(10)危険な場所、危険な遊びや危険な道具などから安全に遊ぶ。	(10)危険な場所、危険な遊びや危険な道具などから安全に遊ぶ。	(10)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(10)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(10)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(10)身近な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	(10)生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。	(10)生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。

<出典>無藤隆・汐見章・砂上史子、こがポイント！3法令ガイドブック、p67, 72

基本事項について幼稚園教育要領（旧）では、幼稚園の時期に小学校入学段階までに身につけておきたい事柄について記載されていたが、新幼稚園教育要領では幼稚園児である時期の子どもの姿や能力を想像し、理解しておくことを必要とし、それらを踏まえ幼児ができることを留意しながら、能力を引き出し伸ばしていくことが必要であるという記載に変わっていることがわかる。

領域については「健康」ではねらい③で見通しを持って行動することや食に対して興味や関心を持つといった事柄が追加された。さらに安全についての記載が幼稚園教育要領（旧）では「2特に留意する事項」として別で記載がされていたが、内容の取扱いに含まれるものとなった。

「人間関係」ではねらいの(2)では「工夫したり、協力したりして一緒に活動できる楽しさを味わい」という文面が追加され、これまでの内容よりさらに発展したねらいが記載されている。

「環境」ではねらい(6)「日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ」というねらいが追加され、ねらいの(8)も「自分なりに比べたり、関連付けたりしながら」という文章が追加され詳細になった。「言葉」ではねらい③に「言葉に対する感覚を豊かにし」という文章が追加された。「表現」については内容の(1)の「色、形」が「形、色」の順番に変更された程度であり、記載されている内容に関しては変わらなかった。

Ⅱ-2 保育所保育指針の比較

保育所保育指針（新）ではこれまでに見られなかった年齢ごとに分類された「子どもの発達」について提示している。年齢及び月齢で見られる子どもの姿や発達が記載されているものであった。そのため、本論文の比較でも、保育所保育指針（新）と同様に満1歳以上3歳未満（以下、未満児）及び3歳以上児（以下、以上児）を分けて比較検討することとする。なお、乳児保育に関しては、今回の目的である領域の内容の比較に対して内容が乳幼児期独自の記載であることから、取り上げないこととした。以下が保育所保育指針の新・旧比較である。

表3 保育所保育指針ねらいの新・旧比較（未満児）

保育所保育指針（新） 1歳以上3歳未満	保育所保育指針（旧） 1歳以上3歳未満
<p>(1) <u>基本的事項</u></p> <p><u>ア この時期においては、歩き始めから、歩く、走る、跳ぶなどへと、基本的な運動機能が次第に発達し、排泄の自立のための身体的機能も整うようになる。つまむ、めくるなどの指先の機能も発達し、食事、衣類の着脱なども、保育士等の援助の下で自分で行うようになる。発声も明瞭になり、語彙も増加し、自分の意思や欲求を言葉で表出できるようになる。このように自分でできることが増えてくる時期であることから、保育士等は、子どもの生活の安定を図りながら、自分でしようとする気持ちを尊重し、温かく見守るとともに、愛情豊かに、応答的に関わる必要がある。</u></p>	

イ 本項においては、この時期の発達の特徴を踏まえ、保育の「ねらい」及び「内容」について、心身の健康に関する領域「健康」、人との関わりに関する領域「人間関係」、身近な環境との関わりに関する領域「環境」、言語の獲得に関する領域「言葉」、及び感性と表現に関する領域「表現」としてまとめ、示している。

ウ 本校の各領域において示す保育の内容は、第1章の2に示された養護における「生命の保持」及び「情緒の安定」に関わる保育の内容と、一体となって展開されるものであることに留意が必要である。

<出典>無藤隆・汐見稔幸・砂上史子，ここがポイント！3 法令ガイドブック，p154-155

表 4 保育所保育指針 5 領域 新・旧比較（未満児）

健康			人間関係			環境			言葉			表現		
新	旧		新	旧		新	旧		新	旧		新	旧	
ねらい			ねらい			ねらい			ねらい			ねらい		
①明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ。			①身近な環境に興味し、触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ。			①言葉遊びや言葉で表現する楽しさを感じる。			①言葉遊びや言葉で表現する楽しさを感じる。			①身体の特徴や動きの認識を豊かにし、様々な感覚を味わう。		
②自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。			②周囲の子ども等への興味や関心が高まり、関わりをもとうとする。			②様々なものに関わり、考えたりしようとする。			②人の言葉や話などを聞き、自分でも思ったことを伝えようとする。			②感じたことや考えたことなどを自分なりに表現しようとする。		
③健康、安全な生活に必要な習慣に気づき、自分でしなようとする気持ちを育つ。			③保育所の生活の仕方に慣れ、きまりの大切さに気づく。			③見る、聞く、触るなどの経験を通して、感覚の働きを豊かにする。			③絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる。			③生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる。		
内容			内容			内容			内容			内容		
①保育士等や周囲の子ども等との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる。			①保育士等や周囲の子ども等との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる。			①安全で活動しやすい環境での探索活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味など、様々な感覚の働きを豊かにする。			①保育士等の広範囲な関わりや話しかけにより、自ら言葉を使おうとする。			①水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ。		
②食事や睡眠、遊びと休息など、保育所における生活のリズムが形成される。			②保育士等の受容的・広範囲的な関わりの中で、探索を適切に促し、安定感をもって過ごす。			②玩具、絵本、遊具などに興味を持ち、それらを使う遊びを楽しむ。			②生活に必要な簡単な言葉に気づき、聞き分ける。			②音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ。		
③走る、跳ぶ、登る、押す、引くなど、身体を使う遊びを楽しむ。			③身の回りに様々な人がいることに気づき、徐々に他の子どもと関わりをもつ遊ぶ。			③身の回りの物に触れる中で、形、色、大きさ、量など、物の性質や仕組に気づく。			③親しむなをもって日常の挨拶に応じる。			③生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気づいたり、感じたりして楽しむ。		
④様々な食品や調理形態に慣れ、ゆつとりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ。			④保育士等の仲立ちにより、他の子どもとの関わり方を少しずつ身につける。			④自分の物と人の物の区別や、場所的感覚など、整理を促せる感覚が育つ。			④絵本や紙芝居を楽しむ、簡単な言葉を使い返したり、模倣をしたりして遊ぶ。			④歌を聴いたり、簡単な手遊びや言葉を使う遊びを楽しむ。		
⑤身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に付く。			⑤保育所の生活の仕方に慣れ、きまりがあることや、その大切さに気づく。			⑤身近な生きものに気づき、親しむ。			⑤保育士等とごっこ遊びをする中で、言葉のやり取りを楽しむ。			⑤保育士等からの話や、生活や遊びの中での出来事を通して、イメージを豊かにする。		
⑥保育士の助けを借りながら、衣服の着脱を自分でしようとする。			⑥生活や遊びの中で、年長児や保育士等の真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする。			⑥広範囲の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ。			⑥保育士等を仲立ちとして、生活や遊びの中で友達との言葉のやり取りを楽しむ。			⑥生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する。		
⑦便器での排泄に慣れ、自分で排泄ができるようになる。									⑦保育士等や友達言葉や話に興味や関心をもって、聞いたり、話したりする。					

＜出典＞無瀬隆・汐見幸・砂上史子「こがポイント」3法令ガイドブック.p155-159

保育所保育指針（新）ではこれまでとは大きく異なり、幼児教育に対しての提言が大きく組み込まれることとなった。これは乳幼児・未満児・以上児全ての年代に対して大きく変化が見られた結果であった。さらにこれまでに見られなかった年齢ごとに分類された「子どもの発達」について提示している。年齢及び月齢で見られる子どもの姿や発達が記載されているものであった。

これまでの保育所保育指針（旧）では3歳以下の子どもに対しての提言は細かく提言されていなかったが、保育所保育指針（新）からは詳細が組み込まれることとなったことが大きく変化していることである。保育所保育指針（旧）では数項目しか記載されていなかった基本的事項及びねらい及び内容が大幅に組み込まれ確立された。基本事項では身体機能が向上しつつある中で、指先の機能や言語の獲得といった詳細な部分に対しての能力の獲得も視野に入れることが文面に記載されている。加えて、領域についての記載は保育所保育指針（旧）では「健康」の部分のみ記載がされており、その他の領域に関しては配慮事項の記載のみであったが、保育所保育指針では各領域ごとに内容が記載されることとなった。

表5 保育所保育指針 新・旧比較（以上児）

保育所保育指針（新） 3歳以上	保育所保育指針（旧） 3歳以上
<p>(1) <u>基本的事項</u></p> <p><u>ア この時期においては、運動機能の発達により、基本的な動作が一通りできるようになるとともに、基本的な生活習慣もほぼ自立できるようになる。理解する語彙数が急激に増加し、知的興味や関心も高まってくる。仲間と遊び、仲間の中の一人という自覚が生じ、集団的な遊びや共同的な活動も見られるようになる。これらの発達の特徴を踏まえて、この時期の保育においては、個の成長と集団としての活動の充実が図られるようにしなければならない。</u></p> <p><u>イ 本項においては、この時期の発達の特徴を踏まえ、保育の「ねらい」及び「内容」について、心身の健康に関する領域「健康」、人との関わりに関する領域「人間関係」、身近な環境との関わりに関する領域「環境」、言語の獲得に関する領域「言葉」及び感性と表現に関する領域「表現」としてまとめ、示している。</u></p> <p><u>ウ 本項の各領域において示す保育の内容は、第1章の2に示された用語における「生命の保持」及び「情緒の安定」に関わる保育の内容と、一体となって展開されるものであることに留意が必要である。</u></p>	

<出典>無藤隆・汐見稔幸・砂上史子，ここがポイント！3 法令ガイドブック，p159-160

表6 保育所保育指針5領域 新・旧比較（以上児）

[illegible]

＜出典＞無藤隆・汐見稔幸・砂上史子，ここがポイント！3法令ガイドブック，p160-166

以上児でも保育所保育指針（旧）では基本的事項は記載されていなかったが、保育所保育指針（新）では基本的事項が提言されている。以上児では基本動作等の確立が行われたことを前提に自立や他への興味関心及び集団に対しての提言が記載されている。

領域についてはねらい、内容双方で追加された記載が見られた。「健康」ではねらい③に「見通しを持って行動する」という文が追加され、内容では⑤の項目及び⑩に「危険な遊び方」が追加された。「人間関係」では狙いの②に「工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい」という文面が足され、内容に関しても④、⑧、⑩がさらに詳しい文面になった。「環境」ではねらいに関して変更は見られなかったが、内容では①、⑥、⑪及び⑫の項目が新たに加わり、⑤及び⑧ではさらに詳しい文面となった。「言葉」ではねらいの③で「言葉に対する感覚を豊かにし」という文が追加され、内容では②の項目が追加された。「表現」ではねらいでは内容については大きな変更は見られなかった。すべての領域での記載に共通する事柄である漢字で記載されていたものが平仮名へ変更された程度であった。内容では②の「美しいものや心を動かす」という詳細な記載が追加された。

Ⅲ 領域「健康」に対する学生の認識

幼稚園教育要領（新）で定められているねらいでは、領域の取扱いに対して「幼児の発達を踏まえた指導を行うに当たって留意すべき事項である」と付け加えられている。さらに幼稚園生活を通して幼稚園の終了時に、領域である力が備わるよう指導が必要であることを述べている。

これらのことから、保育士及び幼稚園教諭は領域における資質・能力を引き出すことのできる関わりや狙いを設定することは必要不可欠であり、理解しておくべきことである。

本論文ではまず領域の「健康」について保育養成校の学生にファシリテーションを行った。

対象：ファシリテーションを行った対象は保育養成校に通う学生39名

この結果は論文のみで使用し、それ以外に活用することはないこと、名前や学籍番号は記入せず匿名にて行うことを口頭で伝えた。

今回行ったファシリテーションの詳細は以下の通りである。

- ①ファシリテーションとはどういったものかを説明
- ②グループを設定（5人前後のグループ）し、その中でファシリテーターと書記を決定
- ③質問は2種類であり、用紙を各グループへ配布し、話し合いは1回5分で2回実施

質問1「保育所保育指針及び幼稚園教育要領に定められている「健康」とはどういった事柄だと思いますか？あなたのイメージや意見を教えてください」

質問2「保育士として「健康」に対して行うべきことはどのようなことがあると考えますか？皆さんの考えを教えてください」

（配布したプリントは片面が、提示した質問に対してグループでの話し合いで出た意見や内容について各グループ自由に記入できるページとし、裏面にはその質問のまとめを3つ記入でき

るプリントである。)

- ④話し合いの後、グループごとで出たまとめを発表
- ⑤質問2を開始する前に「新保育所保育指針」と「新幼稚園教育要領」に記載されている「健康」についてのプリントを配布（質問2では自分の意見ではなく、保育士としての考えを話し合ってもらうため、保育所保育指針及び幼稚園教育要領の内容のプリントを参考プリントとした）
- ⑥質問2を再度グループで話し合いを実施。
- ⑦質問2のまとめを発表
- ⑧プリントを回収紙。終了

1つ目の質問では「保育所保育指針及び幼稚園教育要領に定められている「健康」とはどういった事柄だと思いますか？あなたのイメージや意見を教えてください」という質問であった。自由に意見を出し合った結果、キーワードとして、図1の分類に分けられた。



図1 質問1の自由回答の分類分け

それぞれの分類に関する意見の例を以下の表7に記載する。

表7 質問1（自由記述）の回答意見

食・栄養に関する意見	バランスのとれた食事	納豆・卵・ヨーグルト
体・体力作りに関する意見	エスカレーターではなく階段	運動
睡眠に関する意見	早寝早起き	十分な睡眠
衛生面に関する意見	清潔に保つ	お風呂に入る
排泄に関する意見	毎日排便	排泄
病気・怪我予防に関する意見	風邪をひかない	体調管理
精神面に関しての意見	心身の安定	笑うこと
その他の意見	水分補給	日光浴

食・栄養に関する意見の「納豆・卵・ヨーグルト」や体・体力作りに関する意見の「エスカレーターではなく階段」など、話し合いの場で保育養成校の学生は自身が行う健康に対して行っていることなどを記載しているグループもあった。主に食・栄養についてや体・体力作りなどといった体の形成に対しての話し合いが多く見られた中で、一部のグループでは精神面も健康であることに関連しているのではないかと話合いも見られた。

質問1のまとめの結果は図2である。

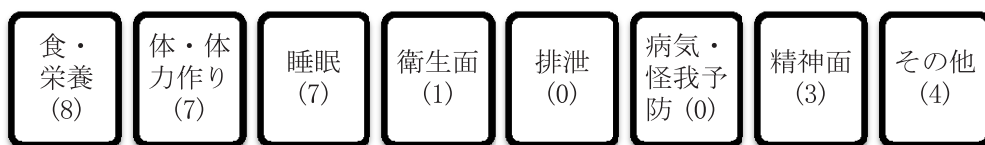


図2 質問1のまとめの分類分け

食・栄養に関する意見と身体・体力作りに関する意見、睡眠に関する意見が多かった。反面、自由記述では幾つか意見が見られたものの、衛生面に関する意見は1つのみであり、排泄に関する意見は0であった。

このことから、保育養成校の学生は「健康」と聞いてまずイメージする事柄は、「食・栄養」「体・体力作り」「睡眠」の3分類であることがわかる結果であった。

2つ目の質問は「保育士として、「健康」に対して行うべきことはどのようなことがあると考えますか？皆さんの考えを教えてください」という質問である。

先の質問1と同様に、自由に意見を出し合った質問紙をまとめた結果、図3の分類となった。



図3 質問2の自由回答の分類分け

質問2では質問1で見られた分類以外に「保育士として行うことに関する意見」が分類に加わった。話し合いでは、子どもにどうしたら理解してもらえるようになるかといった話し合いのグループも見られた。

質問2のまとめの結果は図4である。



図4 質問2のまとめの分類分け

質問2の結果では、保育士として行うことに関する意見が14で最も多い結果となった。次いで食・栄養に関する意見と体・体力作りに関する意見、睡眠に関する意見などが多かった。分類は質問1の結果と同じ傾向が見られたが、質問1と異なる部分は「保育士として行うことに関する意見」が質問2では新たに加わった。衛生面については質問1と比べ、6と少し意見数が増加した。排泄、精神面に関しての意見は1であり、質問1と同様に排泄についての記述は少ない結果となった。

それぞれの分類に関する意見の例を以下の表8に記載する。

表8 質問2（自由記述）の回答意見

食・栄養に関する意見	好き嫌いをしない	食材に関する絵本を読んで食材に対する興味を持たせる
体・体力作りに関する意見	骨を強くする	外で遊ばせる
睡眠に関する意見	寝る子は育つ	午睡に入りやすいようにリラックスした環境を作る（オルゴールなど）
衛生面に関する意見	手洗いの習慣づけ	歯磨き（虫歯にならないため、絵本とかでわかりやすく説明）
排泄に関する意見	ウンチ（悪いものを出す、絵本）	好き嫌いがあることで排泄ができなくなる
病気・怪我予防に関する意見	正しい生活習慣	お昼寝、ご飯の時間を毎日同じにする
精神面に関する意見	コミュニケーションがとれると精神的な健康へ	
保育士として行うことに関する意見	声かけ・言葉かけが大事	絵本や言葉かけを行うことで、バイ菌をやっつける方法として教える
その他の意見	危険な遊び	成長できない

IV 考察

IV-1 幼稚園教育要領及び保育所保育指針の比較の考察

幼稚園教育要領（新）や保育所保育指針（新）は小学校入学前における資質・能力の獲得の重要性が強く記載される文面となったと読み取れるものであった。発達の段階や幼稚園終了時までには獲得できることを視野に入れることへの文面が示唆され、重要性が伺えるものである。そのことに伴い、領域でも詳細な文面が追加されたものとなったと考えられる。

保育所保育指針（未満児）についての考察は、基本事項では身体機能が向上しつつある中で、指先の機能や言語の獲得といった詳細な部分に対しての能力の獲得も視野に入れることが文面に記載されている。この詳細な記載は、未満児に対してのねらいが分かりやすいものとなり、様々な能力や機能の獲得へと繋がるべきものであるだろう。さらに未満児における領域の明確化は保育及び教育を行うべき者の立場から考えても、わかりやすく明確となったことであろう。

保育所保育指針（以上児）の考察は、基本的事項で記載されていた、他への興味関心や自然などに対してより深く関わり理解することを引き延ばす事柄が多く追加されており、以上児での教育では子ども自身の感性や他への重要性を説いたものとなっていると考えられる。

IV-2 領域「健康」の学生の認識についての考察

学生は健康に対して、食事や栄養面、体や体力を作ること、睡眠しっかり取ることが重要であるという考えが主であると考えており、これらは回答した学生自身が自身が健康であるために考えた結果から直結しているものであった。質問2の質問では「保育者として」という言葉が追加されたことにより、絵本や言葉掛けを使って保育者として子どもにどのようなことで方法で伝えることが必要であるかを意識した結果となり、学生は領域としての「健康」に対して意識が深まったのではないだろうか。しかし、今回の結果では領域に記載されている心身面や見通しに対する回答は少なかったことから、領域の「健康」としての認識はまだ足りないものであると考えられる。

まとめと課題

本論文では、幼稚園教育要領の新・旧及び保育所保育指針の新・旧の比較と領域の「健康」についての認識について研究を行ったが、新・旧の比較内容では領域のねらいと内容だけではなく、他の文面も大きく改訂されているため、他の文面の理解も必要である。さらに領域の「健康」の調査に関しても、今回の調査では「健康」に対しての認識が幼稚園教育要領や保育所保育指針に記載されている内容とは異なり大まかな認識であり、まだまだ足りないものであったことから、保育士及び幼稚園教諭養成校の学生が領域に対してどの程度領域としての理解と認識をしているのかを明らかにするために、さらに細かなアンケート調査や領域の内容を組み込んだ質問の方法などを行い調査をすることが必要である。さらに今回の調査から学生の領域に対する理解や認識が足りないと考えられ「健康」以外の領域の調査も行う必要がある。

引用・参考文献

- 無藤隆・汐見稔幸・砂上史子「ここがポイント！3 法令ガイドブック」、フレーベル館、2017、p66-72、p154-167.
- 民集言・西村重稀・清水益治、「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷」、萌文書林、2017、p9-32
- 飯田聡彦「保育所保育指針＜平成29年告示＞」、フレーベル館、厚生労働省告示第117号、2017
- 飯田聡彦「幼稚園教育要領＜平成29年告示＞」、フレーベル館、文部科学省告示第62号、2017

受理日 平成29年10月2日